

協議会だより

発行・編集 大阪障害者スポーツ指導者協議会 広報部

大阪市東住吉区長居公園 1-32 大阪市長居障害者スポーツセンター内

TEL 06-6697-1402 FAX 06-6697-8613

平成 18 年 2 月 20 日

第 53 号

「今年度も・・・共に」

大阪障害者スポーツ指導者協議会
会長 松本 晃

いまや人々の生活に欠かすことができない活動のひとつがスポーツです。しかしながら障害者にとってのスポーツは、まだまだ確立されていません。ごく一部の人が活動しているだけというのが現状ではないでしょうか。

スポーツには、一般的に3つのタイプがあります。トップレベルを目指す競技スポーツ、楽しむことが主眼の地域スポーツ、そして心身の健全化のための生涯スポーツです。

地域スポーツ、生涯スポーツの分野の指導を受けもつのが、我々の役目だと思うのですが、現実には指導とは程遠いボランティアを担当しているのが現状です。

しかし、よく考えてみると私自身が、障害者スポーツ指導員の資格を取ろうと思ったきっかけは、指導者として選手を育成するというような大袈裟なものではなく、スポーツを通じて一緒に楽しもうということからでした。

会員の皆さんが資格を取ろうと思われた動機は様々だと思いますが、スポーツの基本である心と体を健全に保つという目的のために、我々の活動に協力して頂き、協議会の運営にも理事として積極的に参加して頂きたいと思います。

「平成17年度障害者スポーツ協議会」会議報告

大阪障害者スポーツ協議会 理事
永島 久義

平成18年2月8日(水)～9日(木)に毎年恒例の、「平成17年度障害者スポーツ指導者協議会」(大阪障害者スポーツ指導者協議会などの障害者スポーツ指導者の全国会議)と「平成17年度障害者スポーツ協議会」(障害者スポーツ振興組織の全国会議)が開催され、当協議会からは研修部の永島が参加しました。

内容としては、昨年の全国大会「輝いて！おかやま大会」の報告、今年の「第6回全国障害者スポーツ大会 のじぎく兵庫大会」の開催概要、各府県の指導者協議会の活動報告、今後の全国障害者スポーツ大会の競技種目の検討事項等について説明がありました。

また、同時に「第4回障害者スポーツセミナー」「平成17年度日本障害者スポーツ協会会長表彰式」も開催され、障害者スポーツへの支援企業や功労者に日本障害者スポーツ協会から感謝状等が授与されました。

今後「障害者のスポーツの生活化」を主軸にして、平成18年度から平成20年度にかけて、段階的に実施競技や種目の新設等を行っていくとのことです。

配布資料については、当協議会の事務局に保管予定です。閲覧希望の方は、毎月、第一月曜日の夕方7時頃に理事が大阪市長居障害者スポーツセンターで理事会を開催していますので、その際にお越しください。

大阪障害者スポーツ指導者協議会 総会予定

平成 18 年 4 月 23 日 (日)

いよいよ年度末も近づき、恒例の総会の時期となりました。

また理事改正の時となっております。

毎月、第1月曜日に大阪市長居障害者スポーツセンターで夕方7時頃から理事会を開いております。気軽に声をおかけください。皆様のご協力をお願い致します。

総会についての詳細は後日発送いたします。

2006 年

トリノ冬季パラリンピック競技大会

2006 年 3 月 10 日～19 日

応援しよう！

日本選手団 選手 40 名・役員 50 名 合計 90 名

競技種目

アルペンスキー ・ アイススレッジホッケー

ノルディックスキー ・ 車椅子カーリング

編集後記

今年の冬は、すごく寒かったです。体調維持も大変です。

今年度後半、広報活動の時間も少なく、協議会だよりも報告のみとなっていました。

次回は、少しでも情報やお便りを載せていきたいと思っています。

協議会だよりには、載せて欲しい記事などがありましたら、是非、お知らせください。

お待ちしております。

また、広報活動と一緒にしていただけの方を募ります。

大変なことも、多いですが楽しいですよ。

広報部 一同



2006 国際親善車椅子バスケットボール大阪大会



平成 18 年 2 月 16 日（木）～18 日（土）

大 阪 市 中 央 体 育 館



大会目的

障害者のスポーツの普及・発展をめざし、国際交流に資するため世界の強豪チームが参加する車椅子バスケットボール競技大会を開催する。

また、広く市民や学校などに、応援の参加を呼びかけるとともに、児童・生徒と各国選手団との交流や車椅子バスケットボールの体験等を通じて、国際親善と障害者に関する理解の高揚を図る。

ルール

車椅子バスケットボールは、一般バスケットボールと同じで、プレイヤー 5 人によって競技がなされます。

障害のレベルに応じて、持ち点が決められており、コート内でプレイする 5 人の持ち点合計は 14 点を超えてはいけません。

車椅子バスケットボール特有のルール

- 1) **トラヴェリング**…選手がボールを持っているときのプッシュ(車椅子を手でこぐこと)は、連続 2 回までです。3 回以上するとトラヴェリングとなり、相手チームのスロー・インとなります。
- 2) **ダブルドリブル**…車椅子バスケットボールでは、ダブルドリブルは適用されません。こぐ(プッシュ)のが 2 回以内でドリブルをすれば、またこいでもよいことになっています。(以下何回でもできます。)
- 3) **車椅子の転倒**…試合中に車椅子が転倒した場合は、自力で起き上がらなければなりません。おきあがることができない場合は、審判の判断で試合が中断され、チームスタッフが介助します。なお、ボールを持ったまま転倒した場合は、相手チームのスロー・インとなり、ボールを持たずに転倒した場合は、審判の判断で試合が中断されることがあり、ボールを持っていたチームのスロー・インとなります。

主なルール

- 1) **ゴールと点数**・・・スリー・ポイント・ラインより内側のショットによるゴールは 2 点、外側のショットによるゴールは 3 点、フリースローによるゴールは 1 点となります。
- 2) **バック・パス**・・・フロント・コートに運んだボールをバック・コートの味方にパスをしてはいけません。
- 3) **時間制限** 3 秒→攻撃側の選手は、攻める側の制限区域内に、3 秒以上とどま っ てはいけません。
- 5 秒→スロー・インは 5 秒以内。フリースローの際は、審判からボールを渡された後、5 秒以内にショット。5 秒以内にパス、ドリブル、ショットなどをしなければなりません。
- 8 秒→ボールを持ったチームは 8 秒以内にバック・コートからフロント・コート

4) 主なファウル

チャージング・・・攻撃側の選手が、相手側の選手にぶつかること。

イリーガル・ユース・オブ・ハンズ(ハッキング)・・・相手側の選手の手や腕をたたくこと。

プッシング・・・手やからだや車椅子で相手を無理に押すこと。

ホールディング・・・からだや車椅子を使って相手側選手の行動の自由を妨げること。



平成 17 年度 第 1 回大阪障害者スポーツ指導者協議会 研修会 報告

障害者スポーツボランティア活動のためのスキルアップ

～上手なスポーツボランティアの方法とは～

講師 東京都障害者スポーツ指導員協議会 副会長 植田 敏郎 氏

平成 17 年 1 月 23 日に第 1 回研修会が行われました。

研修会の目的として、①障害者スポーツ指導の基本知識を得る ②障害者スポーツ指導者協議会の活性化を図る ③障害者スポーツの質的向上を目指すを題材に、また植田氏のいろいろな経験から参考になるお話を聞くことができました。

障害者スポーツ指導の基礎①

「障害の特性を知ろう」

障害とは

- ・日常生活に何らかの不都合(ハンディ)がある
- ・治らない「病気、身体損傷、運動機能、社会適応能力(知的能力)など」
- ・障害はその人の「個性」

障害者の分類

- ・先天性と後天性
- ・障害児と障害者
- ・行政による分類

介助の基本ルール

- ・必要かどうかの確認
- ・どんな介助方法を望むのか確認
- ・安全第一(ひとりで無理をしない)

- ・本人(家族)とのコミュニケーション重視(声かけ・アイコンタクト)
- ・お節介・同情は不要
- ・介助修了の確認

視覚障害者

- ・全盲・弱視・視野狭窄
- ・糖尿病による網膜剥離
- ・介助のポイント

① 具体的声かけ

② 白杖反対側の半歩前を歩く

③ 時計文字版応用のガイド

聴覚・平衡機能障害者

② 手話・ジェスチャー・キュー・筆談

③ 早とちりに注意

④ 補聴器は万能ではない

音声・言語・(咀嚼)機能障害者

- ・音が出ない
- ・50音の発声ができない
- ・食べる機能 口に入れる⇒噛む⇒呑み込む
- ・介助のポイント

① 安全第一(経管栄養の導入)

② 適する食物の形態

③ 話す・食べるエネルギーの消耗

肢体不自由者

- ・手・足・体幹
- ・切断・機能・脊椎損傷・脳性マヒ

・介助のポイント

① 障害部位は弱い

② 個々の特性の理解

③ ゆっくり余裕を持って

④ 障害の重さからくる偏見(知的能力)

内部障害

- ・心臓(ペースメーカー)
- ・腎臓(人工透析)
- ・小腸・大腸・膀胱・エイズ
- ・介助のポイント

① 外見では判断しない

知的障害

- ・発達段階に出現した症状
- ・社会的不適応
- ・自閉症・ダウン症
- ・LD(学習障害)・高次脳機能障害
- ・ADHD(注意欠陥・多動性障害)

障害者スポーツ指導の基礎②

車椅子移動介助

- ・車椅子の特性を知る
- ・窒息への対応 ＊モジュラー型の普及
- ・乗る人の立場
- ・押す人の立場
- ・段差
- ・前の歩行

排泄介助

- ・サインは？
- ・定期排泄か？ 意思表示か？
- ・便器使用か？ 尿瓶使用か？
- ・排泄中離れた方がいいのか？
- ・衛生管理は神経質に！

重度身体障害者とは？

- ① 日常生活動作(ADL)がほぼ全介助⇒他人の介護がなければ生命の維持ができない
- ② 知的障害が重複している⇒コミュニケーションをとるのが困難

① 身体障害者手帳が1～2級⇒日常生活の困難度が高い コミュニケーションの確保 ・ 介助意思の確認⇒要 or 不要 ・ 介助内容の確認 ・ 介助方法の確認 ・ 介助状態の確認 ・ 完了の確認 重度脳性麻痺者の特性 パターン①不随運動型 ②強直型 ③弛緩型 ④複合型 筋緊張 二次障害 知的レベルの誤解	障害者スポーツ指導の基礎③ 「食事介助」 ・ 安全第一 そして楽しく ・ 早い介助は危険 ・ 普通食にこだわるのは危険 ・ 最適な食形態と姿勢 (介助方法) ・ 必要な専門知識・専門技術・救命技能 障害者スポーツ指導の基礎④ 「障害者福祉サービス制度」 ・ 手帳の取得 ・ 福祉事務所の活用 ・ 意外に知らないサービス ・ 生活全般が円滑になり、スポーツへ関わる余裕がでる ・ ケアマネジメント	障害者スポーツ指導の基礎⑤ 「練習方法」 ・ 種目の選定 ・ 障害程度(クラス分け)のルール ・ 効果的な練習と勝つための作戦 ・ 求められる「広く浅いスポーツ知識」 ・ 障害者スポーツルールの研究 障害者スポーツ指導の基礎⑥ 「効果的な指導技術」 ・ 指導とは ・ ティーチプログラム「構造化」 (言葉ではなく視覚的な情報提示手段) ・ 成功事例の理論化 ・ マニュアル化 ・ 選手に信頼される優秀な指導者を目指して
---	---	---

第2回 大阪障害者スポーツ指導者研修会 報告 平成18年1月14日

障害者スポーツ活動中の救命救急時への実践対処

～AED を用いた応急手当～

講師 NPO 法人 大阪ライフサポート協会の皆さん

大阪府立介護実習・普及センターに於いて、AED を用いた応急手当の実技を行いました。

AED を用いた心肺蘇生法は、簡単に安心して徐細動を行うことができました。講習機会があれば1回でも多く受講して頂ければと思います。

AED を用いた蘇生処置の流れ

1. 傷病者の意識がなければ応援を求め、119 番通報するとともに AED があれば持ってきてもらいます。
2. AED が到着し次第、電源を入れ、電極を装着し、AED の指示に従います。
3. AED が徐細動が必要と指示した場合は、安全を確認し徐細動を実行します。
4. 1 回のショックで効果がない場合は、3 回連続で徐細動を行います。
5. 3 回連続の徐細動を行った後は、1 度循環の評価を行います。循環がなければ心肺蘇生を 1 分間行ったのち、再度心電図解析を行い、徐細動の必要性を判断します。(すべて AED の指示に従います)
6. 徐細動が必要な不整脈が持続する場合は、3 回除細動→1 分間の心肺蘇生→解析→3 回除細動を繰り返します。
7. 「除細動の必要はありません」とのメッセージが出た場合は、循環がもどっている(咳・呼吸・体動がある)か、心停止の状態かを判断し、心停止であれば心肺蘇生を継続します。

第5回全国障害者スポーツ大会

「輝いて！おかやま大会」



大阪市選手団

桃太郎スタジアム



開会式



大阪府選手団



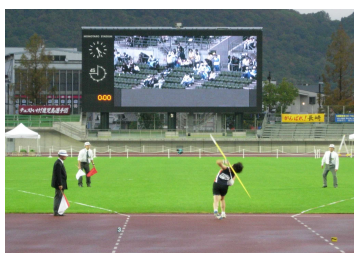
視覚障害者 60m



水泳

上→大阪府

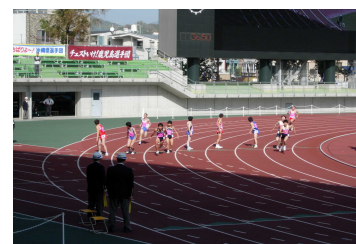
左→大阪市



やり投げ



100m (身体)



リレー (知的)

平成17年11月5日～7日、岡山県において、第5回全国障害者スポーツ大会が行われました。

大会の目的は、「障害のある選手が、障害者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与する」。

開会式は、晴天に恵まれ感動の幕開けとなりました。

大会中日は、残念ながら雨になり選手の皆さんも苦戦したようです。

大会独特の雰囲気の中、プレッシャーを受け、練習の成果を発揮できた選手、そうでない選手も『あなたがキラリ』でした。

平成18年は、兵庫県です。大阪からは近いので是非、皆さん応援に行きましょう。